

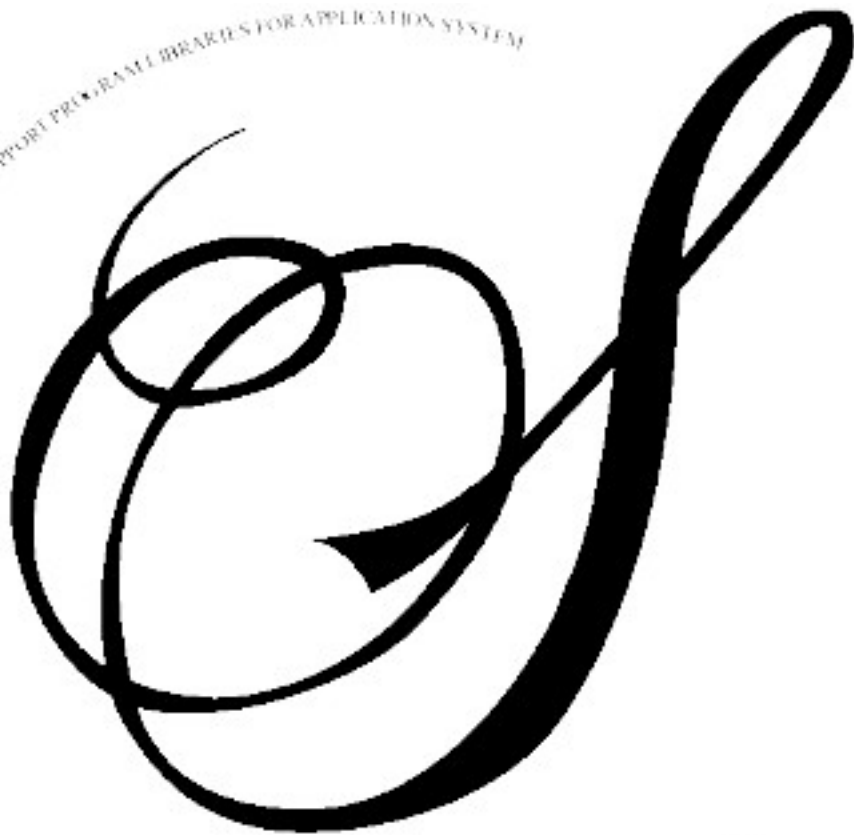
# FUJITSU

## SIMPLIA/VF-FILECOMP

### オンラインマニュアル

(ソフトウェア開発保守支援システム / ファイル比較ツール)

SIMPLIA DEVELOPMENT & MAINTENANCE SUPPORT PROGRAM LIBRARIES FOR APPLICATION SYSTEM



FUJITSU



Windows版  
SIMPLIA/VF-FILECOMP V60L10  
オンラインマニュアル

第 2 版  
平成14年6月作成

## はじめに

SIMPLIA/VF-FILECOMPは、2つのファイルを比較し、レコード内の相違を検出するツールです。比較するファイルの種別としては、テキストファイル、バイナリファイル、CSVファイルがあります。また、比較結果は、保存することができるので、何度でも表示することができます。

## ヘルプを読むために

HTML3.2をサポートするWWWブラウザ（インターネットエクスプローラ V3.02以降、Netscape NavigatorV4.03以降）をお使いください。

## 登録商標について

本オンラインマニュアルで使われている登録商標及び商標は、以下のとおりです。

- Microsoft、Windows、WindowsNTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

## 略記について

本オンラインマニュアルでは、各製品を次のように略記しています。

「Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system」		「Windows(R) 95」
「Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system」		「Windows(R) 98」
「Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition」		「Windows(R) Me」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0」		「Windows NT(R)」または、「Windows NT(R) 4.0」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0」		「Windows NT(R)」または、「Windows NT(R) 4.0」

「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system,Enterprise Edition Version 4.0」		「Windows NT(R)」 、「Windows NT(R) 4.0」または「Windows NT(R) E.E.」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0,Terminal Server Edition」		「Windows NT(R)」 、「Windows NT(R) 4.0」または「Windows NT(R) T.S.E.」
「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional operating system」		「Windows(R) 2000」または、「Windows(R) 2000 Professional」
「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system」		「Windows(R) 2000」または、「Windows(R) 2000 Server」
「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system」		「Windows(R) 2000」または、「Windows(R) 2000 Advanced Server」
「Microsoft(R) Windows(R) XP Professional operating system」		「Windows(R) XP」または、「Windows(R) XP Professional」
「Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition operating system」		「Windows(R) XP」または、「Windows(R) XP Home Edition」
「Windows(R) 95」、「Windows(R) 98」、「Windows(R) Me」、「Windows NT(R)」、「Windows(R) 2000」または、「Windows(R) XP」		「Windows(R)」

## 背景

テスト工程では、テストした結果の検証が必要です。検証の手段の1つとして、テスト実行前と実行後のファイルの突き合わせがあります。

現状は、ファイルのダンプを出力して、手作業でデータの違いを見つけ、実行結果が正しいことを判断します。ただし、この方法ですと、テスト対象の実行結果位置がどこであるか、目検する必要があり、テストを何回も繰り返す場合は、大変時間が掛かり、とても効率的とは言えません。

## 開発目的

SIMPLIA/VF-FILECOMPは、データを書き換える前のファイルと書き換えた後のファイルの内容を比較し、画面に表示することができます。

次のような場面でご使用になれます。

- 更新系プログラムの実行結果を検証したい。

更新系のプログラムの実行前と実行後のデータを突き合わせて、実行結果が正しい値になっているか確認できます。

- 仕様変更に伴うデータ内容の結果を検証したい。

プログラムの仕様変更に伴い、変更した箇所が正しい値になっているかを確認できます。

- システム移行に伴うデータ内容の結果を検証したい。

プログラムを旧システムより移行した場合に、旧システムのデータと新システムのデータを突き合わせて、データ内容に変更がないか、または、正しく移行できているかを確認できます。

コマンド - [ファイル]メニュー

ファイル(F)	表示(V)	コンペア(C)	オプション(O)	ウィンドウ(W)	ヘルプ(H)
---------	-------	---------	----------	----------	--------

項目	説明
新規作成(N)	文書を新規に作成します。
開く(O)	ファイルを開きます。
閉じる(C)	ファイルを閉じます。
比較条件ファイル指定比較(M)	フォルダ内の比較条件ファイルを連続して実行します。
上書き保存(S)	作業中のファイルを、上書きして保存します。
名前を付けて保存(A)	作業中のファイルをファイル名を付けて保存します。
印刷プレビュー(V)	比較結果ファイルを印刷する場合の、印刷イメージを表示します。
印刷設定(U)	印刷時の設定をします。
印刷(P)	比較結果ファイルを印刷します。
(最新のファイル名) 比較結果ファイル名1、2・・・	以前利用した比較結果ファイル名または比較条件ファイル名が表示されます。該当するファイル名を選択するとそのファイルを開きます。
SIMPLIA/VF-FILECOMPの終了(X)	SIMPLIA/VF-FILECOMPを終了します。

項目	説明
比較条件ファイル(J)	既存の比較条件ファイルを開きます。
比較結果ファイル(K)	既存の比較結果ファイルを開きます。

項目	説明
比較条件ファイル(J)	現在開いている比較条件ファイルを閉じます。
比較結果ファイル(K)	現在開いている比較結果ファイルを閉じます。

項目	説明
比較条件ファイル(J)	作業中の比較条件ファイルに新しい名前を付けて保存します。拡張子「.cmc」
比較結果ファイル(K)	作業中の比較結果ファイルに新しい名前を付けて保存します。拡張子「.cmr」



コマンド - [表示]メニュー

<a href="#">ファイル(F)</a>	<a href="#">表示(V)</a>	<a href="#">コンペア(C)</a>	<a href="#">オプション(O)</a>	<a href="#">ウィンドウ(W)</a>	<a href="#">ヘルプ(H)</a>
-------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------

項目	説明
ツールバー(T)	ツールバーの表示または非表示を切り替えます。
ステータスバー(S)	ステータスバーの表示または非表示を切り替えます。
詳細情報(J)	比較結果に対する詳細な情報を表示します。
16進数表示(H)	表示されたデータを16進数で表示します。
前アンマッチ表示(B)	選択されたアンマッチ行の前のアンマッチ部分に移動します。
次アンマッチ表示(N)	選択されたアンマッチ行の次のアンマッチ部分に移動します。

コマンド - [コンペア]メニュー

<a href="#">ファイル(F)</a>	<a href="#">表示(V)</a>	<a href="#">コンペア(C)</a>	<a href="#">オプション(O)</a>	<a href="#">ウィンドウ(W)</a>	<a href="#">ヘルプ(H)</a>
-------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------

項目	説明
設定(S)	比較条件を設定します。
レコード抽出条件(R)	レコード抽出時の条件を設定します。
コンペア(C)	比較処理を開始します。
リコンペア(V)	すでに比較された結果を再度コンペアし、比較結果ファイルを置き換えます。

<a href="#">ファイル(F)</a>	<a href="#">表示(V)</a>	<a href="#">コンペア(C)</a>	<a href="#">オプション(O)</a>	<a href="#">ウィンドウ(W)</a>	<a href="#">ヘルプ(H)</a>
-------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------

項目	説明
環境設定(P)	動作環境を設定します。
COBOL言語資産からのフィールド情報抽出(A)	COBOL言語資産（登録集）から、フィールド情報を抽出します。

コマンド - [ウィンドウ]メニュー

<a href="#">ファイル(F)</a>	<a href="#">表示(V)</a>	<a href="#">コンペア(C)</a>	<a href="#">オプション(O)</a>	<a href="#">ウィンドウ(W)</a>	<a href="#">ヘルプ(H)</a>
-------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------

項目	説明
重ねて表示(C)	ウィンドウを重ねて表示します。
並べて表示(T)	ウィンドウを並べて表示します。
アイコンの整列(A)	ウィンドウの下部にアイコンを整列します。
ウィンドウ名1、2・・・	指定したウィンドウを表示します。

<a href="#">ファイル(F)</a>	<a href="#">表示(V)</a>	<a href="#">コンペア(C)</a>	<a href="#">オプション(O)</a>	<a href="#">ウィンドウ(W)</a>	<a href="#">ヘルプ(H)</a>
-------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------

項目	説明
トピックの検索(H)	オンラインマニュアルを表示します。
バージョン情報(A)	バージョン情報を表示します。

## 比較条件の設定方法

### 比較条件ファイルの作成方法

---

ファイルの比較処理を行うために、まず比較条件ファイルの作成を行います。  
比較条件ファイルは、比較処理に必要な条件を指定（保存）するためのファイルです。

比較条件ファイルは、以下の手順で作成してください。

#### [操作手順]

- 1) メニューの[オプション]から[環境設定](#)を選択し、比較処理を行うための環境を設定します。
  - 2) メニューの[ファイル]から[新規作成]を選択します。
  - 3) 新規作成画面にて、比較条件ファイルの名前を設定してください。拡張子は「.cmc」です。
  - 4) [設定画面](#)が表示されますので、画面の内容に従って設定してください。
    - 比較対象ファイルの設定
    - 比較範囲の設定
    - 比較オプションの設定
  - 5) [レコード抽出条件画面](#)が表示されますので、画面の内容に従って設定してください。
    - 条件の選択
    - 同一キーの比較
  - 6) メニューの[ファイル]から[閉じる-比較条件ファイル]を選択し、設定した情報を比較条件ファイルに保存します。
- 

#### ポイント

- 比較条件ファイルの拡張子は「.cmc」です。  
比較条件ファイルは以下のタイミングでも保存されます。
- ツール終了時
  - 別の比較条件ファイルを開く時

## 設定画面

設定画面では、比較対象となるファイル名やファイル種別、比較する範囲等を指定します。

### 比較対象ファイルの設定

設定

対象ファイルの設定 | 比較範囲の設定 | 比較オプションの設定

(1) ファイル種別(B): テキスト

ファイル1

(2) ファイル名(F): C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\DAT 参照(S)...

(3) レコード長(R): 80

(4) レコード分離(K): CRLF (復帰改行)

(5) フィールド分離(M):

(6) 文字列識別(J):

ファイル2

(7) ファイル名(F): C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\DAT 参照(V)...

(8) レコード長(I): 80


(9) レコード分離(L): CRLF (復帰改行)

(10) フィールド分離(N):

(11) 文字列識別(O):

OK キャンセル ヘルプ

No	項目	内容
(1)	ファイル種別	<p>比較するファイルのファイル種別を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- テキストファイル レコードの最後に改行コードがあるファイル。</li> <li>- バイナリファイル レコードの区切りがないファイル。レコード長の指定が必要。</li> <li>- CSVファイル レコード内に区切り文字が存在するテキストファイル。</li> </ul>
(2)	ファイル名	<p>比較するファイル（比較対象ファイル）を指定します。</p> <p><b>参照</b></p> <p>ファイルを開く画面より、ファイル名を選択する場合に使用します。</p>
(3)	レコード長	比較するファイルの種別が「バイナリ」の場合、レコード長を指定します。
(4)	レコード分離	<p>比較するファイルの種別が「テキスト」か「CSV」の場合、レコード分離文字（改行コード）を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 復帰改行： CRLF (0x0d0a)</li> <li>- 復帰： CR (0x0d)</li> <li>- 改行： LF (0x0a)</li> </ul>

(5)	フィールド分離	比較するファイルの種別が「CSV」の場合、フィールド分離文字（区切り文字）を指定します。 - 空白/タブ - カンマ（,）
(6)	文字列識別	比較するファイルの種別が「CSV」の場合、フィールド内のデータが文字列である場合の文字列識別文字を指定します。 - シングルクォーテーション（'） - ダブルクォーテーション（"）
(7)	ファイル名	比較するファイル（比較対象ファイル）を指定します。  ファイルを開く画面より、ファイル名を選択する場合に使用します。
(8)	レコード長	比較するファイルの種別が「バイナリ」の場合、レコード長を指定します。
(9)	レコード分離	比較するファイルの種別が「テキスト」か「CSV」の場合、レコード分離文字（改行コード）を指定します。 - 復帰改行 CRLF（0x0d0a） - 復帰 CR（0x0d） - 改行 LF（0x0a）
(10)	フィールド分離	比較するファイルの種別が「CSV」の場合、フィールド分離文字（区切り文字）を指定します。 - 空白/タブ - カンマ（,）
(11)	文字列識別	比較するファイルの種別が「CSV」の場合、フィールド内のデータが文字列である場合の文字列識別文字を指定します。 - シングルクォーテーション（'） - ダブルクォーテーション（"）

## 比較範囲の設定



設定

対象ファイルの設定

比較範囲の設定

比較オプションの設定

比較範囲1

(1) 相対位置(Q): (15,-25);参照(S)...複写(C)

比較範囲2

(2) 相対位置(Q): (15,-25);参照(V)...複写(P)

NOT指定

(3) ☐ NOT(N)

OK

キャンセル

ヘルプ

No	項目	内容
(1)	相対位置	<div><p>比較対象ファイル1内のレコードから、比較したい位置決めを行います。これを比較範囲といいます。比較範囲は、フィールド指定画面より、フィールドを設定したものを使用します。比較範囲は最大100個まで指定できます。</p><p>比較範囲は、対象ファイル1と対象ファイル2で同じ個数を指定してください。</p><div>参照</div><p>フィールド指定画面を表示して、比較範囲を設定する場合に使用します。</p><div>複写</div><p>相手側の比較範囲を複写する場合に使用します。</p></div>
(2)	相対位置	<div><p>比較対象ファイル2内のレコードから、比較したい位置決めを行います。これを比較範囲といいます。比較範囲は、フィールド指定画面より、フィールドを設定したものを使用します。比較範囲は最大100個まで指定できます。</p><div>参照</div><p>フィールド指定画面を表示して、比較範囲を設定する場合に使用します。</p><div>複写</div><p>相手側の比較範囲を複写する場合に使用します。</p></div>
(3)	NOT指定	<div><p>指定された比較範囲を除くその他の範囲を使用したい場合に指定します。</p><p>NOT指定を外す場合は、比較範囲を変更する、または、比較ファイル種別変更する必要があります。</p><p>ファイル種別が「CSV」の場合は、指定できません。</p></div>

比較オプションの設定

設定

対象ファイルの設定

比較範囲の設定

比較オプションの設定

不一致件数設定

(1) 件数(K):

0

比較設定

(2) ☐ 空白とLOW-VALUEを区別しない(H)

(3) ☒ データ末尾の空白を削除して比較する(D)

余り領域の文字設定

(4) 文字(C):

FF

OK

キャンセル

ヘルプ

No	項目	内容
(1)	不一致件数設定	比較処理を発生した不一致件数が指定された値になるまで処理を続行します。ゼロを指定すると、最大500件まで比較処理を実行します。
(2)	比較設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 空白とLOW VALUEを区別しない。 レコード中に空白（16進数で0x20）が存在する時、LOW VALUE（16進数で0x00）と同一値として処理します。</li> </ul>
(3)	比較設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>- データ末尾の空白を削除して比較する。 データの末尾に空白（16進数で0x20）が存在する時、空白を削除して比較処理を実行します。</li> </ul>
(4)	余り領域の文字設定	<p>比較するデータ長が短い場合に、余りの領域に詰める文字を16進数で指定します。余り領域を設定するケースとして以下のケースがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ファイル種別がバイナリで、最後のレコードが指定されたレコード長より短い場合。</li> <li>- ファイル種別がテキストかバイナリで、比較範囲内のデータが途中までしか存在しない場合。</li> <li>- ファイル種別がテキストで、指定された比較範囲がレコード長を超えている場合。</li> </ul>

## レコード条件設定画面

レコード条件設定画面では、比較対象となるファイルより読み込むレコードの抽出条件を指定します。

### 条件の選択

レコード抽出条件の設定

条件の選択 | 同一キーの比較



(1) ☒ レコード全件

(2) ☐ 同一キーの比較

OK キャンセル ヘルプ

No	項目	内容
(1)	レコード抽出条件 [レコード全件]	ファイル中のレコード全てを比較の対象とする場合のレコード抽出条件です。
(2)	レコード抽出条件 [同一キーの比較]	<p>ファイルのレコードのある部分が同じ値のものを比較の対象とする場合のレコード抽出条件です。</p> <p>レコード抽出の規則</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 比較対象ファイル1を基本としてレコード抽出します。よって、比較対象ファイル1の読み込みが終了した時点で比較処理は終了し、そこまでの結果を出力します。</li><li>- 比較対象ファイル1には存在し、比較対象ファイル2には存在しないレコードがある場合、そのレコードは不一致対象とはなりません。</li><li>- 比較対象ファイル2には存在し、比較対象ファイル1には存在しないレコードがある場合、そのレコードは不一致対象とはなりません。</li></ul>

### 比較範囲の設定

No	項目	内容
(1)	相対位置	<p>同一キーの比較を行う場合の同一キーにあたるレコード内の位置を指定します。同時に複数指定することはできません。</p> <p></p> <p>フィールド指定画面を表示して、比較範囲を設定する場合に使用します。</p>
(2)	相対位置	<p>同一キーの比較を行う場合の同一キーにあたるレコード内の位置を指定します。同時に複数指定することはできません。</p> <p></p> <p>フィールド指定画面を表示して、比較範囲を設定する場合に使用します。</p>

## ポイント

当画面で指定した値は、条件の選択画面で「同一キーの比較」を選択しないと、比較処理で有効になりません。

## コンペアの方法

### 比較処理（コンペア）の方法

---

比較条件ファイルの作成が完了すると、比較処理(コンペア)を行うことができます。比較処理を実行すると、比較結果がウィンドウに表示されます。  
また、比較結果は、比較結果ファイルとしてディスクに保存することができますので、何度でも比較結果を表示することができます。

#### [ 操作手順]

- 1) メニューの[ファイル]から[開く-比較条件ファイル]を選択し、比較条件ファイルを開きます。
  - 2) メニューの[コンペア]から[コンペア]を選択します。
  - 3) 比較結果がウィンドウに表示されます。
  - 4) 比較の条件や結果の[詳細を表示する](#)場合は、メニューの[表示]から[詳細情報]を選択します。
  - 5) 比較結果をディスクに保存する場合は、メニューの[ファイル]から[名前を付けて保存-比較結果ファイル]を選択します。
  - 6) 比較結果を閉じる場合は、メニューの[ファイル]から[閉じる-比較結果ファイル]を選択します。
- 

#### ポイント

- 比較結果ファイルの拡張子は「.cmr」です。
- 比較結果ファイルをオープンすると、関連する比較条件ファイルもオープンされます。

既に存在する比較結果に対して、再度比較処理を実施する場合は、再比較(リコンペア)を行うことができます。

#### [操作手順]

- 1) メニューの[ファイル]から[開く-比較条件ファイル]を選択し、比較条件ファイルを開きます。拡張子は「.cmc」です。
- 2) メニューの[ファイル]から[開く-比較結果ファイル]を選択し、比較結果ファイルを開きます。拡張子は「.cmr」です。
- 3) メニューの[コンペア]から[リコンペア]を選択します。
- 4) 比較結果がウィンドウとして表示されます。

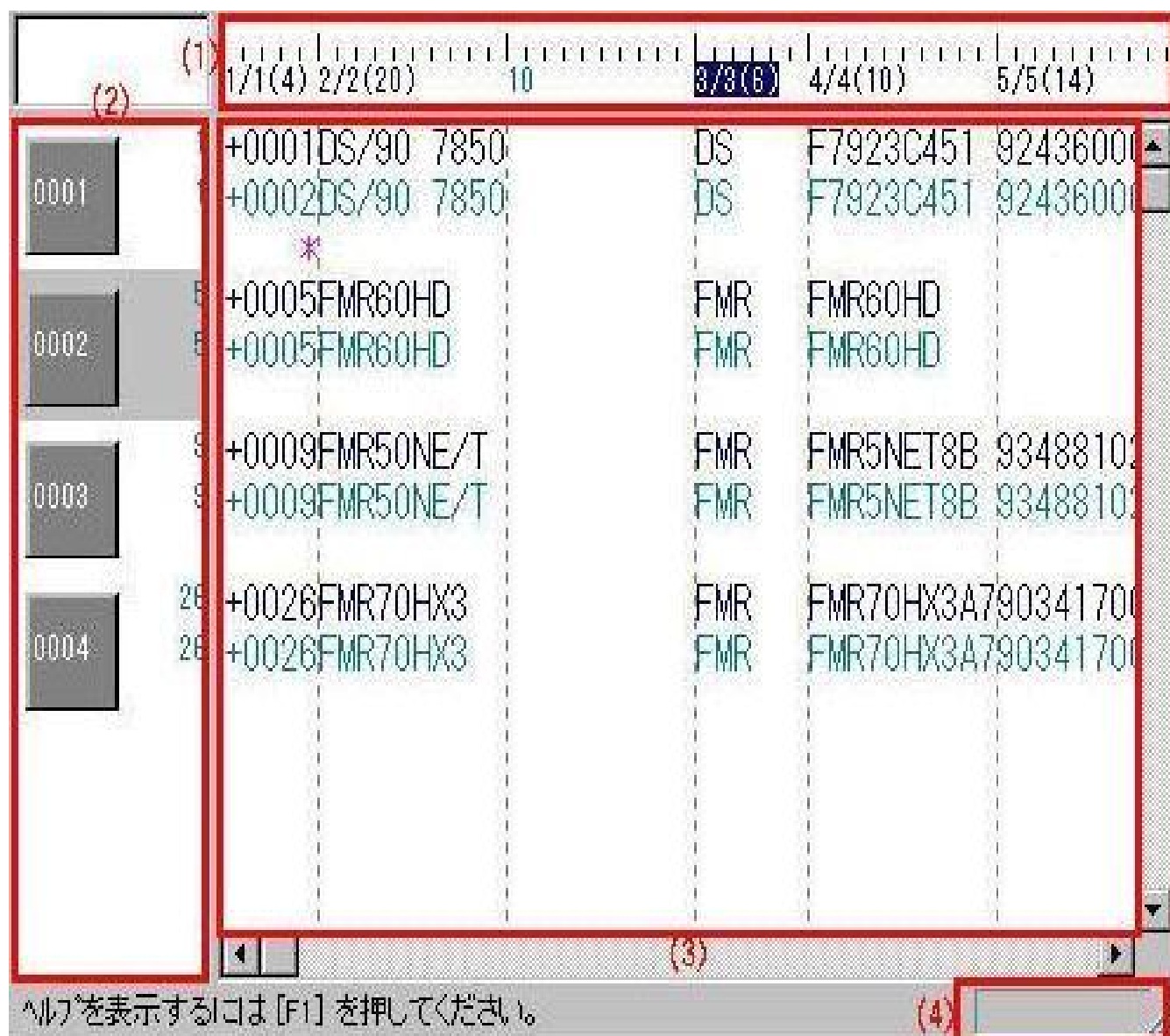
#### ポイント

- リコンペアを行う場合は、比較条件ファイルと比較結果ファイルを開いてください。
- リコンペア時は、その時点に指定されている比較条件で比較処理を行います。

コンペア処理後の比較結果をリコンペアすることもできます。

## 比較結果の表示について

比較条件に基づいて比較処理された結果は、比較結果画面に表示されます。比較結果画面は、比較結果を分かりやすく表示するために以下のような仕組みになっています。



No	項目	内容
(1)	ルーラー	1バイト毎に目盛りでデータの区切りを表した領域です。 10バイト毎の区切りや比較範囲の開始位置には、通常の2倍の長さで表示しています。
	比較範囲ガイド 3/3(6)	比較範囲を指定している場合に限り、比較範囲1、2の開始位置とデータ長を上図のように表示しています。 データ長が短く、表示しきれない場合は、マウスで当領域を選択すると表示することができます。
(2)	不一致レコード番号領域	比較処理後、不一致となったレコード毎に番号を付けて表示した領域のことです。 当領域をマウスで選択することで、前アンマッチ表示操作や次アンマッチ表示操作を行うことができます。
(3)	比較結果表示領域	比較処理後、不一致となったレコードが存在する場合、比較対象ファイル1、2それぞれのレコードと不一致になった箇所を示すインディケータレコード（比較対象ファイル1と2で不一致になった部分を「*」で記された比較対象ファイルと同一のレコード長をもつ領域）を表示する領域です。

(4)	ステータス	<a href="#">16進数の表示状況</a>
-----	-------	---------------------------

ポイント  
比較結果表示領域に表示された不一致を示すインディケータ「✖」を検索する場合、[アンマッチ部分の表示方法](#)を参照して下さい。



## 16進数表示の方法

比較結果は、キャラクタ表示しています。データによってはキャラクタ表示だと表現できない場合があります、内容を確認することができません。そのような場合、16進数表示を行い、データを全て16進数に変換して表示します。

### [操作手順]

- 1) [コンペア](#)を行うか、メニューの[ファイル]から[開く-比較結果ファイル]を選択し、比較結果ファイルを開きます。
- 2) メニューの[表示]から[16進数表示]を選択します。
- 3) 16進数表示を解除する場合は、再度、2)を行います。

### ポイント

- 16進数表示中は、ステータスバー上に「16進数表示」と表示されます。



- 比較結果画面上で右クリックすると、メニューが表示されるので、「16進数表示」を選択することによっても、同様に行えます。

## 詳細情報の表示方法

比較処理後の比較結果や比較結果ファイルを開いた場合、比較結果に対する以下の情報を表示することができます。

**詳細情報**

[実施日]  
比較を行った日: 2002.04.05  
比較を行った時間: 11:31:41

[処理結果]  
読み込み件数-1: 14  
読み込み件数-2: 14  
比較件数: 14  
一致件数: 11  
アンマッチ件数: 3

[比較条件]  
比較条件ファイル: C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\Temp\data1.cmc

[設定内容]  
ファイル種別: バイナリ  
フィールド情報のNOT指定: なし  
比較対象ファイル1: C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\DATA\COPYT1.DAT  
比較対象ファイル1のレコード長: 500  
比較範囲1:

OK ヘルプ

項目	内容
[実施日]	比較処理を実施した日、時間
[処理結果]	比較対象ファイルからのレコードの読み込み件数 比較処理されたレコード件数 比較処理で一致、不一致になったレコード件数
[比較条件]	比較処理で使用された比較条件ファイル名
[設定内容]	比較対象ファイルのファイル種別とファイル名 レコード識別子(ファイル種別がテキストとCSVの場合) フィールド識別子(ファイル種別がCSVの場合) 文字列識別子(ファイル種別がCSVの場合) レコード長(ファイル種別がバイナリの場合) 比較対象の範囲 比較範囲のNOT指定
[実行指定]	比較処理で中断するための不一致件数値 空白とLOW-VALUEの区別指定 余り文字領域に指定する16進数文字
[レコード条件指定]	レコード抽出条件の種別 同一キー値の比較で指定されたキー値

### ポイント

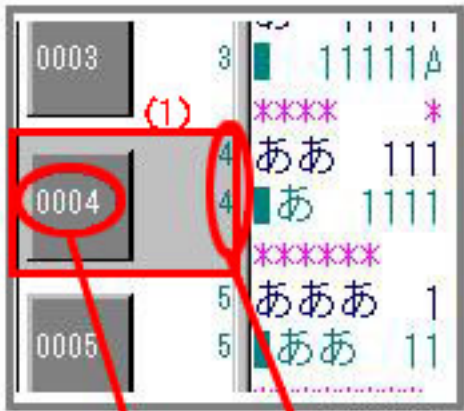
比較結果画面上で右クリックすると、メニューが表示されるので、「詳細情報表示」を選択することによっても、同様に行えます。

アンマッチ部分の表示方法

比較結果の不一致部分単位にウィンドウをスクロールすることができます。

[操作手順]

- 1) [コンペア](#)を行うか、メニューの[ファイル]から[開く-比較結果ファイル]を選択し、比較結果ファイルを開きます。
- 2) アンマッチ部分を表示したいレコードを選択します。



比較対象ファイル上のレコード番号(上1、下2)

不一致レコード番号

No	項目	内容
(1)	不一致レコード番号領域	比較処理後、不一致となったレコード毎に番号を付けて表示した領域のことです。 当領域をマウスで選択することで、前アンマッチ表示操作や次アンマッチ表示操作を行うことができます。

- 3) レコード条件に同一キー比較を選択した場合は、境界線をスライドさせ、同一キー値を確認することができます。



同一キー値を表示中であることを表す

境界線

同一キー値

- 4) メニューの[表示]から[次アンマッチ表示]を選択します。
- 5) 前のアンマッチ部分を表示したい場合は、メニューの[表示]から[前アンマッチ表示]を選択します。

- ポイント
- マウスの右をクリックすると、メニューが表示されるので、「前アンマッチ表示」、「次アンマッチ表示」を選択することによってスクロールすることができます。
  - 前アンマッチ表示はShift+Tabキーで、次アンマッチ表示はTabキーを押すことによってスクロールすることができます。

## フィールド指定の方法

比較条件に基づいて比較処理された結果は、比較結果画面に表示されます。比較結果画面は、比較結果を分かりやすく表示するために以下のような仕組みになっています。レコード中の処理対象部分を当ツールでは「フィールド」といいます。フィールドは、設定画面の比較範囲やレコード条件設定画面の同一キーの指定で使います。それぞれの画面から参照ボタンを押すことにより、以下の操作でフィールドを設定し、選択することができます。

No	項目	内容
(1)	開始位置	フィールドのレコード内開始位置を指定します。 開始位置は、比較対象ファイルのファイル種別により意味が異なります。 - ファイル種別が「テキスト」や「バイナリ」の場合 対象のフィールドが、レコードの開始を1として何バイト目かを指定します。 - ファイル種別が「CSV」の場合 対象のフィールドが、区切り文字で区切られた部分の何番目かを指定します。
(2)	データ種別	データ種別は、比較対象ファイルのファイル種別が「CSV」の場合、対象のフィールドの属性を指定します。 データ種別には、「数値」と「文字列」があります。 なお、比較対象ファイルのファイル種別が「テキスト」や「バイナリ」の場合は、データ種別に「なし」を指定します。

(3)	データ長	<p>フィールドのデータ長を指定します。 データ長は、データ種別により指定方法が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- データ種別が「なし」か「文字列」の場合 1から32760</li> <li>- データ種別が「数値」の場合 整数部：小数部 整数部：0～18 小数部：0～18 整数部と小数部両方にゼロを指定することはできません。</li> </ul>
(4)	説明	<p>フィールドの説明を指定します。 最大で全角50文字まで指定できます。</p>
(5)	フィールド一覧	<p>選択されたフィールドの一覧が表示されます。 当一覧には、ファイル種別に関係なく、すべてのデータ種別を格納しておくことができます。 また、当一覧から選択したフィールドを選択一覧へ追加する場合に使用します。</p> <div> <div>確定</div> <div>削除</div> <div>編集</div> </div> <p>設定したフィールドをフィールド一覧の最後に追加します。</p> <p>フィールド一覧から選択されたフィールドを削除します。</p> <p>フィールド一覧から選択されたフィールドを編集します。</p>
(6)	選択一覧	<p>フィールド一覧より選択された一覧が表示されます。 当一覧には、起動元に返却するフィールドを格納します。</p> <div> <div>選択</div> <div>全解除</div> <div>解除</div> </div> <p>フィールド一覧から選択一覧に追加します。</p> <p>選択一覧にあるフィールドを全て削除します。</p> <p>選択一覧から選択されたフィールドを削除します。</p>

#### [操作手順]

##### フィールドの設定

- 1) 開始位置、データ種別、データ長、説明を指定し、確定ボタンを押します。
- 2) 確定されると、フィールド一覧に追加されます。
- 3) フィールド一覧に表示されているフィールド情報を選択して削除ボタンを押すと、フィールド一覧から削除されます。
- 4) フィールド一覧に表示されているフィールド情報を選択して編集ボタンを押すと、選択したフィールド情報が開始位置、データ種別、データ長および説明が表示されます。  
内容を確認し、再度設定後、確定ボタンを押します。

##### フィールドの選択

- 1) フィールド一覧に表示されているフィールド情報を選択して選択ボタンを押します。
- 2) 選択されると、選択一覧に追加されます。
- 3) 選択一覧に表示されているフィールドを取り消す場合は、そのフィールドを選択した後、解除ボタンを押します。
- 4) 選択一覧に表示されているフィールド情報を全て取り消す場合は、全解除ボタンを押します。
- 5) フィールドの選択が完了したら、OKボタンを押します

#### ポイント

- 既に選択されているフィールドの上に、新たにフィールドを追加したい場合は、以下の手順で操作します。

- 1) フィールド一覧より、追加したいフィールドを選択します。
- 2) 選択一覧より、追加させたいフィールドを選択します。
- 3) 選択ボタンを押します。



## 環境設定の方法

FILECOMPの動作に関する環境設定を行います。

No	項目	内容
(1)	初期フォルダの設定	比較条件ファイルや比較結果ファイルを保存するための初期フォルダを予め指定します。 インストール直後は、インストールフォルダ配下のDefaultフォルダに設定されています。 作業用フォルダと同じフォルダを指定することはできません。 <div>参照</div> 参照画面より、フォルダ名を選択する場合に使用します。
(2)	作業用フォルダの設定	比較処理を行うための作業用フォルダを予め指定します。 インストール直後は、インストールフォルダ配下のTempフォルダに設定されています。 初期フォルダと同じフォルダを指定することはできません。 <div>参照</div> 参照画面より、フォルダ名を選択する場合に使用します。
(3)	ファイル名番号の設定	比較結果ファイル生成時の初期ファイル名で使用するファイル名に付加する番号を指定します。 当番号は、ツール起動時に1に設定され、比較ファイルが生成される毎に+1されます。
(4)	横スクロール幅の設定	比較結果表示域の横スクロール幅を1～10の範囲で指定します。 当設定値は、利用者毎にレジストリに格納されるので、ツール起動時に毎回設定する必要はありません。

(5)	比較結果ファイルの出力	比較結果が不一致なしの場合でも、比較結果ファイルを出力するかを指定します。
(6)	表示するウィンドウ数	比較結果画面のウィンドウへの表示を設定します。 「制限する」を指定した場合、ウィンドウ数は10個までとなります。

[操作手順]

- 1) メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。
- 2) タブ「初期値の設定」を選択します。
- 3) 初期フォルダ名を指定します。参照ボタンを押すと、フォルダの一覧が表示されますので、そこから選択することができます。
- 4) 作業用フォルダ名を指定します。参照ボタンを押すと、フォルダの一覧が表示されますので、そこから選択することができます。
- 5) ファイル名番号を指定します。スピンボックスを使用すると数値が上下します。
- 6) 横スクロール幅を指定します。スピンボックスを使用すると数値が上下します。
- 7) 不一致がない場合でも、比較結果ファイルを出力するかを指定します。
- 8) 初期値の設定が完了したら、OKボタンを押します。

No	項目	内容
(1)	ヘッダ情報	ヘッダーへの表示情報を設定します。
(2)	フッタ情報	フッターへの表示情報を設定します。

[操作手順]

- 1) メニューの[オプション]から[環境設定]を選択します。
- 2) タブ「印刷時の初期値設定」を選択します。
- 3) ヘッダー、フッターへの表示情報を設定します。
- 4) 設定が完了したら、OKボタンを押します。

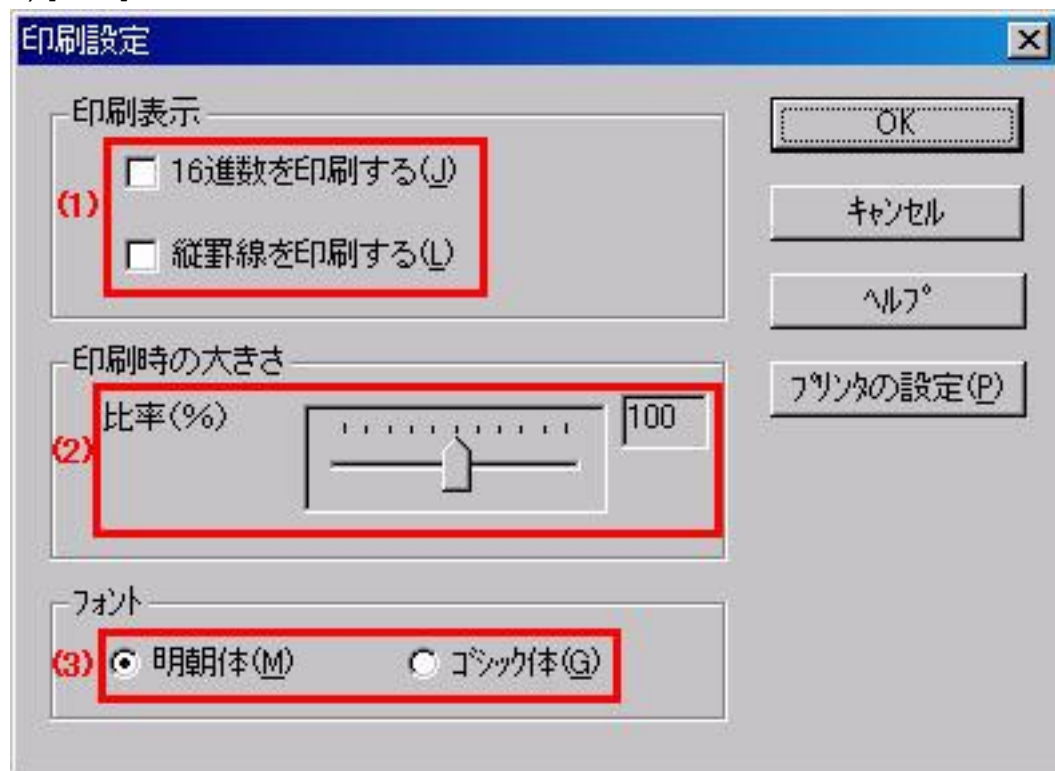
## 比較結果の印刷方法

### 比較結果の印刷方法

比較結果は、印刷することができます。

#### [操作手順]

- 1) メニューの[オプション] - [環境設定] - [印刷時の初期値設定]を選択し、ヘッダー、フッター情報を設定します。
- 2) [コンペア]または、[開く] - [比較結果ファイル]により、比較結果を表示します。
- 3) [印刷設定]メニューにて、16進数印刷などを設定します。
- 4) [印刷プレビュー]メニューにて、印刷イメージを確認します。
- 5) [印刷]メニューにて比較結果を印刷します。



No	項目	内容
(1)	印刷表示	-16進数を印刷する 比較結果のキャラクタ表示の下に16進数を印刷するかを指定します。 -縦罫線を印刷する 10バイト毎の縦罫線を印刷するかを指定します。
(2)	印刷時の大きさ	印字サイズを設定します。比率は50%から150%まで指定することができます。
(3)	フォント	印刷で表示されるフォントを設定します。

#### ポイント

- CSV形式の比較結果は、フィールド単位に印刷されます。



## 比較条件ファイルを一括作成する方法

### バッチモードによる比較条件ファイルの一括作成

コマンドによって比較条件ファイルを一括で大量に作成することができます。一度に大量のファイルの比較を行う場合に有効です。

#### [操作手順]

##### 1) コマンドライン形式

v fmkcmc 比較条件一括作成ファイル名

ファイル名は、フルパスで記述してください。

"vmkcmc ? " コマンドヘルプが表示されます。

#### 比較条件一括作成ファイル作成方法

- 比較条件一括作成ファイルは、以下内容をテキスト形式で記載してください。
  - 1.比較対象ファイル1、比較対象ファイル2、ファイル種別、レコード長を","(カンマ)で区切ってください。
  - 2.比較対象ファイル1、比較対象ファイル2はフルパスで指定してください。
  - 3.ファイル種別は、テキストは0、バイナリは1、CSVは2で指定してください。
  - 4.レコード長は、ファイル種別がバイナリの場合のみ有効です。比較対象ファイル1、比較対象ファイル2とも同一のレコード長が設定されます。

例 ) makecmc.txt

```
C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥1¥1.txt,C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥2¥1.txt,0  
C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥1¥2.txt,C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥2¥2.txt,0  
C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥1¥3.dat,C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥2¥3.dat,1,30  
C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥1¥4.dat,C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥2¥4.dat,1,30  
C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥1¥5.csv,C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥2¥5.csv,2  
C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥1¥6.csv,C:¥SIMPLIA¥VF-FILECOMP¥DATA¥2¥6.csv,2
```

#### - 生成される比較条件ファイル

比較対象ファイル1のファイル名で拡張子「.cmc」の比較条件ファイルが作成されます。  
比較対象ファイル1と同じフォルダに格納します。

#### 注意事項

比較条件一括作成ファイルでファイル内容に誤りがある場合は、コマンド実行後に以下のメッセージが表示されます。

「ファイルの内容に誤りがあります。内容は"vmkcmc.err"を確認してください。」

エラーファイルの内容を確認し、比較条件一括作成ファイルを修正してください。  
エラーメッセージの前に表示されている番号は、比較条件設定ファイル内の行数です。

同一フォルダ内に格納されている複数の比較条件ファイルは、連続して比較処理を行うことができます。

[ 操作手順]

- 1) メニューの[ファイル] - [比較条件ファイル指定比較]を選択します。
- 2) [比較条件ファイルからの比較]画面で、実行すべき比較条件ファイルの格納先フォルダを設定します。
- 3) [比較結果設定]画面にて、比較条件ファイルと比較結果ファイルの保存に関する設定をします。
- 4) [比較条件ファイル指定比較]ウィンドウが表示されます。
- 5) [比較条件ファイル指定比較]ウィンドウの [ コンペアの開始]ボタンを押すと、比較条件ファイルを連続して実行します。
- 6) [比較条件ファイル指定比較]ウィンドウの [ 比較一覧]ウィンドウに、比較結果が表示されます。
- 7) 比較処理を終了する場合は、[ファイル]メニューの[連続実行の終了]を選択します。

比較条件ファイルからの比較

比較条件ファイルのフォルダを指定してください。

(1) フォルダ(P): C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\DATA 参照(Y)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

No	項目	内容
(1)	比較条件ファイルのフォルダ	実行すべき比較条件ファイルの格納先フォルダを設定します。

比較結果設定

新規作成される比較条件ファイルの格納先フォルダを指定してください。

(1) フォルダ(P): C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\DATA\iki 参照(Y)...

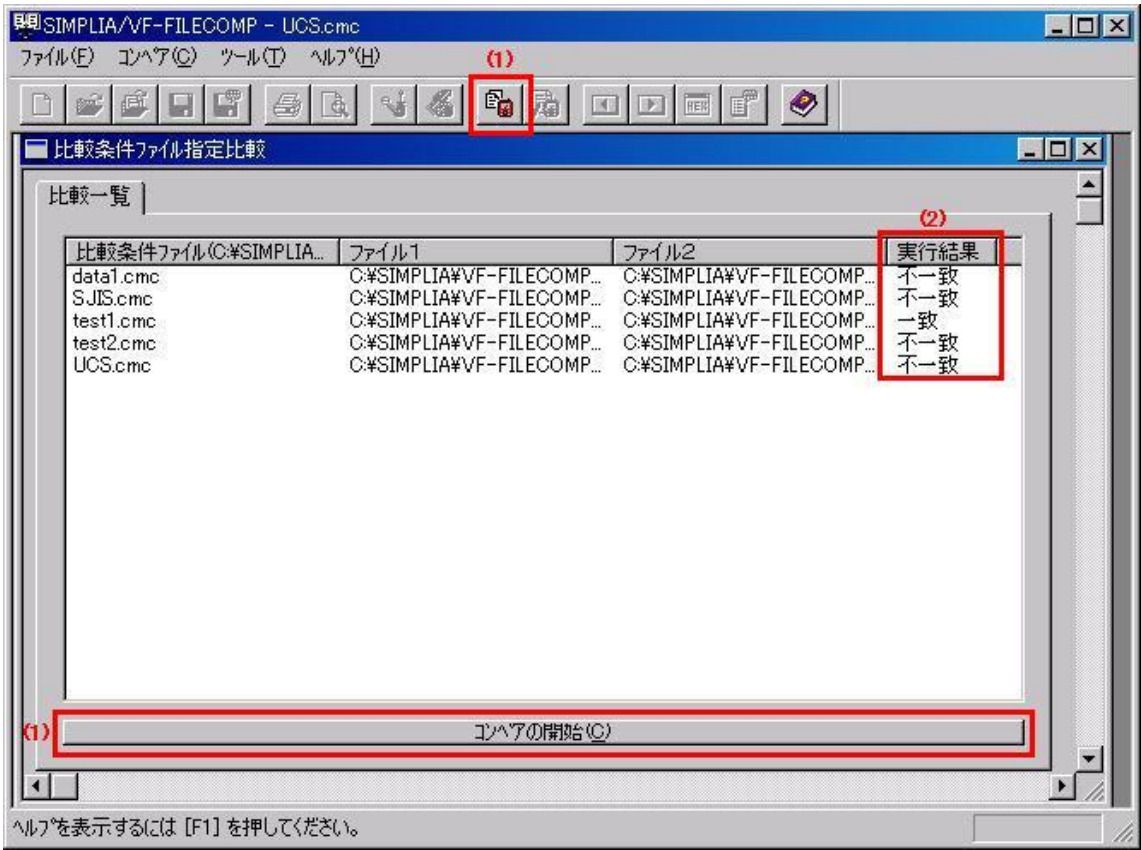
比較結果ファイルの格納先フォルダを指定してください。

☒ 比較結果ファイルを作成する(M)

(2) フォルダ(R): C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\DATA\iki 参照(W)...

< 戻る(B) 完了 キャンセル ヘルプ

No	項目	内容
(1)	新規作成される比較条件ファイルの格納先フォルダ	新規に作成される比較条件ファイルの格納先フォルダを設定します。 比較条件ファイル指定比較を行うと比較条件ファイルが新たに作成されます。 既存の比較条件ファイルを保持し、更新された比較条件ファイルを別フォルダに格納します。 比較条件ファイルは、拡張子[.cmc]です。
(2)	比較結果ファイルの格納先フォルダ	比較結果ファイルの格納先フォルダを設定します。 比較結果ファイルは、[ 比較条件ファイル名.cmr]のファイル名で作成されます。 例 ) [test1.cmc.cmr]



No	項目	内容
(1)	コンペアの開始	比較（コンペア）を開始します。
(2)	実行結果	比較結果が表示されます。 比較結果は、「一致」または「不一致」で表示されます。

## 比較処理をバッチモードで実行する方法

### バッチモードによる比較

バッチモードによる比較処理では、指定によりウィンドウを表示せずにバックグラウンド上で処理を実行させることができます。実行結果については、コマンドの復帰値およびログファイルの内容により確認できます。

#### [ 操作手順]

##### 1) コマンドライン形式 ( []は省略可 )

v ffil32.exe /x|b 比較条件ファイル名(\*.cmc)

/en 実行ログファイル名 |ea

/rf|f 比較結果ファイル名

ファイル名は、フルパスで記述してください。パスを省略した場合は、カレントフォルダとみなします。

#### パラメタの説明

x 比較条件ファイル名 ( 拡張子は.cmc)

=> 比較条件示ファイル指定します。(実行時に進捗状況インジケータを表示します。)

進行状況インジケータの[中断]ボタンによる、終了中断が可能です。

b 比較条件ファイル名 ( 拡張子は.cmc)

=> 比較条件ファイル指定します。(実行時にウィンドウを一切表示しません。)

en 実行ログファイル名 ( 拡張子は.log)

=> 実行ログ出力ファイルを指定します。

ea

=> 実行ログは、error.logファイルに出力します。

f 比較結果ファイル名 ( 拡張子は.cmr)

=> 強制上書きモード。比較結果ファイルが存在している場合、上書きします。

比較結果ファイルが存在しない場合は、エラーになります。

rf 比較結果ファイル名 ( 拡張子は.cmr)

=> 比較結果ファイルが存在する場合は、エラーとするモード。

#### 注意事項

- x または b は、どちらか一方を必ず指定しなければなりません。
- x と b は、同時に指定することはできません。
- f オペランドが指定されている場合は出力ファイルが既に存在しても、強制的に上書きします。  
f オペランドが指定されていない場合は、強制終了されます。

#### 復帰値

実行コマンドは以下のいずれかの復帰値で終了します。(プロセスの強制終了や異常終了時の復帰値は保証できません)

#### 復帰値 説明

- |   |                  |
|---|------------------|
| 0 | : 正常終了 ( 不一致なし ) |
| 1 | : 正常終了 ( 不一致あり ) |
| 2 | : 未使用            |
| 3 | : 異常終了           |
| 9 | : パラメタエラー        |

COBOL言語資産から、フィールド情報を抽出することができます。抽出したフィールド情報は、比較範囲設定時に利用することができます。ファイル内の特定項目のみを比較する場合に効果的です。

解析オプション

解析オプション

解析ファイル

言語種別

COBOL(C)

(1) 解析ファイル(A)

C:\SIMPLIA\VF-FILECOMP\Default\参照(S)...

ファイル種別

(2) 

テキスト/バイナリ形式(T)

CSV形式(R)

繰り返し項目を

(3) 

展開する(Y)

展開しない(N)

OK

キャンセル

ヘルプ

No	項目	内容
(1)	解析ファイル	フィールド情報を抽出する対象のCOBOL言語資産（登録集）のファイル名を指定します。
(2)	ファイル種別	比較対象のファイル種別を設定します。 テキスト/バイナリ形式の場合は、開始位置、長さ及び項目名を抽出します。 CSV形式の場合は、上記に加えて属性を抽出します。
(3)	繰り返し項目	繰り返し項目の展開有無を指定します。

抽出データの反映箇所の設定

抽出したデータの反映箇所を指定してください

フィールド一覧に追加する

ファイル1のフィールド1に追加する

ファイル2のフィールド1に追加する

双方のフィールド1に追加する

OK

キャンセル

ヘルプ

抽出したデータの反映箇所を指定します。  
[比較範囲の設定画面](#)で確認、追加した後に、コンペアを行ってください。

ポイント  
- 解析できるCOBOL登録集は、COBOL文法上、正しく記述されていなければなりません。

## サンプルデータでの動作確認手順

VF-FILECOMPに付属するサンプルデータの使用手順を以下に説明します。

(1)スタートメニュー「SIMPLIAシリーズ」の「VF-FILECOMP V60」フォルダより、「SIMPLIA VF-FILECOMP」を選択します。

(2)環境設定

メニューバーから「オプション(O)」を選択し、プルダウンメニュー内の「[環境設定](#)」を選択します。  
「初期値の設定」 - 「初期フォルダの設定」で、初期フォルダを指定します。  
インストール先の「Sample」フォルダを指定します。

(3)メニューバーから「[ファイル\(F\)](#)」を選択し、プルダウンメニュー内の「新規作成」を選択します。  
「新規作成」ダイアログボックスが表示されます。  
新規にファイルを作成します。

(4)設定プロパティシートが表示されます。

(5)「対象ファイルの設定」タブを選択し、以下のように設定します。

ファイル種別	バイナリ	
ファイル1	ファイル名	(6)～(8)を参照
	レコード長	500
ファイル2	ファイル名	(6)～(8)を参照
	レコード長	500

(6)ファイル1及びファイル2内の参照ボタンを押下します。

(7)「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

(8)ファイル1のファイル名にはインストール先の「Sample」サブフォルダ内のサンプルデータファイル  
("COPYT1.DAT")を指定し、「開く」ボタンを押下します。

ファイル2のファイル名にはインストール先の「Sample」サブフォルダ内のサンプルデータファイル  
("COPYT2.DAT")を指定し、「開く」ボタンを押下します。

(9)「比較範囲の設定」タブを選択し、以下のように設定します。

比較範囲1	相対位置	(10)～(15)を参照
比較範囲2	相対位置	(16)～(19)を参照

(10)比較範囲1内の「参照」ボタンを押下します。

(11)「[フィールド指定](#)」ダイアログボックスが表示されます。以下のように設定します。

フィールド	開始位置	1
	データ種別	なし
	データ長	50

(12)「確定」ボタンを押下します。

(13)フィールド一覧に(1,-,50,)が反映されるので、フィールド一覧内の(1,-,50,)を選択し、「選択」ボタンを押下します。

(14)選択一覧に(1,-,50,)が反映されたのを確認し、「OK」ボタンを押下します。

(15)比較範囲1の「相対位置」に((1,-,50);)が反映されます。

(16)比較範囲2内の「参照」ボタンを押下します。

(17)「フィールド指定」ダイアログボックスが表示されます。

(18)フィールド一覧には、(11)で設定した(1,-,50,)が反映されているので(1,-,50,)を選択し、「選択」ボタンを押下します。

(19)選択一覧に(1,-,50,)が反映されたのを確認し、「OK」ボタンを押下します。

(20)「相対位置」に((1,-,50);)が反映されます。また、「複写」ボタンを押下しても反映されます。

(21)「閉じる」ボタンを押下すると、レコード抽出条件の設定プロパティシートが表示されます。

(22)「条件の選択」タブを選択します。

(23)「レコード全件」を選択し「OK」ボタンを押下します。

(24)ファイルの比較結果が表示されます。

この画面でVF-FILECOMPの各機能をお試しください。



(25)VF-FILECOMPを終了するときは、メニューバーから「[ファイル\(F\)](#)」を選択し、プルダウンメニュー内の「SIMPLIA/VF-FILECOMPの終了」を選択します。

サンプルの比較結果の内容を以下に記述します。

	1/1( 50)	10	20	30
JOC1	1	T9510-A-01H274920183	バーコードリーダ	
	1	T9410-B-02H274920183	バーコードリーダ	
		* * *		
JOC2	2	T9510-A-02H274920183	バーコードリーダ	
	2	T9510-A-02H999920183	バーコードリーダ	
		***		
JOC3	3	T9510-B-01H637292735	高速カラスキャナ	
	3	T9510-B-01H637292735	カラスキャナ	
		***** ** * *		

## ツールバー

VF-FILECOMPのツールバーについて以下に説明します。



	項目	コマンド	内容
ファイル	(1)	新規作成	比較条件ファイルを新規に作成します。
	(2)	開く：比較条件ファイル	既存の比較条件ファイルを開きます。
	(3)	開く：比較結果ファイル	既存の比較結果ファイルを開きます。
	(4)	上書き保存	作業中のファイルを上書きして保存します。
	(5)	名前を付けて保存：比較結果ファイル	作業中の比較結果ファイルに新しい名前を付けて保存します。
印刷	(6)	印刷	比較結果を印刷します。
	(7)	プレビュー	印刷イメージを表示します。
環境	(8)	設定	比較条件を設定します。
	(9)	レコード抽出条件	レコード抽出条件を設定します。
比較	(10)	コンペア	比較処理を開始します。
	(11)	リコンペア	既に比較された結果を再度コンペアし、比較結果ファイルを置き換えます。
表示	(12)	前アンマッチ表示	選択されたアンマッチ行の前のアンマッチ部分に移動します。
	(13)	次アンマッチ表示	選択されたアンマッチ行の次のアンマッチ部分に移動します。
	(14)	16進数表示	表示されたデータを16進数で表示します。
	(15)	詳細情報	比較結果に対する詳細な情報を表示します。
ヘルプ	(16)	トピックの検索	オンラインマニュアルを表示します。



## キーボード

当ツールには、以下のショートカットキーを割りつけています。

キーボード	内容
Ctrl+N	比較条件ファイルの新規作成
Ctrl+O	比較条件ファイルを開く
Ctrl+M	比較条件ファイル指定比較
Ctrl+S	比較結果ファイルの上書き保存
Shift+Tab	前アンマッチ部分を表示
Tab	次アンマッチ部分を表示
Home	不一致レコードの先頭を表示
End	不一致レコードの後尾を表示
Ctrl+Home	先頭レコードを表示
Ctrl+End	最終レコードを表示
PageUp	現在表示されている画面分前へ表示
PageDown	現在表示されている画面分次へ表示
Alt+F7	設定画面を表示
F7	コンペアを実行

## 制限事項

- 比較条件に関する制限事項を以下に記述します。
  - ファイル種別がバイナリの場合、比較対象ファイルのレコード長は32761バイト以上指定できません。
  - 不一致件数に指定できる値は、最大100です。  
ただし、不一致件数を0に指定した場合、不一致件数が500件を越えると処理を中断します。
  - 比較範囲に指定できるフィールド数は最大100個です。
- 比較結果に関する制限事項を以下に記述します。
  - 比較条件で指定された余り領域の文字設定に00を指定する場合は、比較対象ファイルのファイル種別にテキストを指定することができません。  
比較結果として余り領域に設定した文字が表示されません。
  - Unicodeのテキストファイルでは、比較ができません。
  - 比較結果を段組印刷で出力する場合には、10バイト毎の縦罫線が正しく表示されません。[印刷設定]から「縦罫線を印刷する」チェックを外して印刷してください。

## 注意事項

- 設定画面の比較対象ファイルの設定で、ファイル種別の変更を行うと、各種範囲指定が消去されてしまいます。変更した場合は、再度、範囲指定を行ってください。
- 設定画面の比較範囲の設定で指定した範囲が、実際のレコード長を越えている場合、比較オプションで設定した余り文字が設定されます。比較対象ファイル1と2の双方がレコード長を越えている場合、余り文字が設定されるため、比較結果は一致したものとして判断されます。
- 設定画面の比較範囲の設定で指定した範囲が重なっていても比較処理はエラーとなりません。

例:

<フィールド指定1>

開始位置: 1

データ長: 10

<フィールド指定2>

開始位置: 5

データ長: 10

000000000111111111  
1234567890123456789

フィールド1 \*\*\*\*\*  
フィールド2 \*\*\*\*\*

- 比較対象ファイルのファイル種別が「CSV」の場合、設定画面の比較範囲でNOT指定を指定しないでください。指定すると比較処理時にエラーとなります。
- 比較対象ファイルのファイル種別が「CSV」の場合、設定画面の比較対象ファイルの設定の文字列識別と比較範囲で指定するフィールドのデータ種別の関係は、以下のとおりです。
- 比較処理では、比較範囲で指定するフィールドのデータ種別で実データが文字列かどうかを判断しています。比較対象ファイルの設定で指定する文字列識別は、指定された文字列識別が比較範囲外であることをツールが認識するために指定します。データ中には、フィールドの開始と終了に文字列識別があるものとして処理します。もし、開始のみ、終了のみにしか文字列識別がない場合は、比較対象のデータとして処理されます。
- 文字列識別の指定がないデータを比較する場合は、比較対象ファイルの設定の文字列識別に何を指定してもかまいません。
- 比較条件で指定したファイル種別と指定された比較対象ファイルのファイル種別が異なる場合、比較結果が正しく行われないため、出力された比較結果は保証されません。
- レコード抽出条件の同一キーの比較では、指定されたキー値毎に比較処理を行います。よって、ファイル上のレコードの並びが、指定されたキー値で昇順でない場合、正しい比較結果が得られない場合があります。
- レコード抽出条件の同一キーの比較を行う場合、比較範囲に、同一キーの相対位置で指定したフィールドも含めるようにしてください。含めないで比較を行うと、比較結果確認時に同一キーの値を見ることができません。
- 比較条件で指定した余り領域の文字が、比較処理で比較されるとアンマッチとして出力されます。これは、余り領域なのか否かを表示上明確にするためです。
- 比較結果表示時にスクロールバーを押しつづけた場合、表示が崩れる場合があります。その場合は、一度比較結果を破棄し、再度コンペアを行ってください。
- 指定できるファイル名の長さは、パス込みで250バイトまでです。